

横浜でビックイイベント開催 2015世界トライアスロンシリーズ横浜大会

5月16日(土)、横浜市の山下公園で「2015世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が開催され、激しい雨の中、熱い戦いが繰り広げられていました。

トライアスロンとは、ラテン語の3を意味する「トライ」と競技を表す「アスロン」を組み合わせた言葉で、スイム(水泳)・バイク(自転車)・ラン(ランニング)の3種目を連続して行う複合競技です。

横浜大会は、「パラトライアスロン」(障害者のトライアスロン)も行われる世界でも数少ない大会です。

パラトライアスロンの競技は、トライアスロンの競技種目と同じです。しかし、いくつか大きな違いがあります。まず、選手の持つ障害が競技結果に及ぼす影響を少なくするために、その類型と度合いに応じてカテゴリーが設けられていることです。横浜大会では5つのカテゴリーに分けられました。またランジション(スイムからバイク、バイクからランへと競技種目を転換すること)があり、この時にかかった時間も競技タイムに加算されることも特徴です。



ハンドサイクルでレース中の選手の様子【撮影・岩田彩花】

さらに上の写真のようなハンドサイクルや競技用車いすなど、特殊なものが使われたり、視覚障害者が対象となるPT5では、同性のガイドがレースの行われている間ずっと伴走することになっています。

今回このカテゴリーで2位だった山田敦子選手は「トライアスロンを4回挑戦しているが、雨のレースは初めてだったので不安でした。でもガイドさんが協力してくれたので安心して走れました」と話してくれました。

「パラトライアスロン」は、2016年にリオデジャネイロで行われるパラリンピックで正式競技として採用されることになっています。

【岩田彩花】

こども記者紹介

岩田 彩花 つくば国際大学
東風小学校・5年



一眼レフカメラは、今回のトライアスロン世界大会取材のワークショップで初めて使いました。最初は使いこなすのが大変でしたが、使い方がわかってきたら自分が納得できる写真がとれるようになってきてうれしかったです。

パラトライアスロンの選手の人たちに会うまでは、障害を持っている人たちは毎日悲しい顔をして生活していると思っていました。しかし、選手の人たちに実際に会ってお話を聞いたら、障害を持っていると感じさせないくらい皆明るくて優しく、前向きなところがすてきでした。私も負けずに頑張りたいと思います。

自分が取材したことを記事にまとめるのはすごく大変でしたが、仕上がった時はうれしかったです。色々な体験をさせてくださり、ありがとうございました。

【横浜市体育協会・吉山博之】
大会スタッフやプロのカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

印象に残ったインタビュー



世界トライアスロンシリーズ横浜大会のパラトライアスロンの取材を通じて、特に印象に残ったのは、PT4(うでの機能障害のカテゴリー)で4位になった佐藤圭一選手です。

佐藤選手は生まれつき左手の指先がなかったそうです。

そのため左手で物を持ってなくて不便な時もありますが、小学校の時もバスケットボールをふつうにしていたと聞いてびっくりしました。

また、「自転車に乗る時どこで支えているのですか?」というこども記者からの質問に対して、「腹筋で支えています」と答えていたので、佐藤選手の腹筋はとても強いだろうなと思いました。

最後に写真を撮らせてもらった時に、とても素敵な笑顔を見せてくれました。また、モデルのようにたくさんポーズをしてくれたので、うれしかったです。

インタビューさせてもらった選手たちが、2016年にリオデジャネイロで行われるパラリンピックにぜひ出場してほしいなと思います。【岩田彩花】

こども記者 事業報告

今回、世界トライアスロンシリーズ横浜大会組織委員会と公益財団法人横浜市体育協会の連携、そして株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により、初めての試みとして「こども記者」を実施、小学5・6年生8人が集まりました。

世界のトップアスリートが集う大会で、撮影・選手インタビュー取材を行い、この「こども新聞」を作成。

一眼レフカメラの使い方、実践の中でスポーツ写真の撮り方、取材についてのアドバイスをを行った事前ワークショップ(5月6日)、荒天の中、朝早くからの大会取材(5月16日)と自宅での原稿作成そして新聞づくりの事後ワークショップ(5月24日)。

こどもたちにとって、大変ながらも充実したプログラムになりました。

「スポーツには、『する』『観る』『支える』のさまざまな楽しみ方がある」と言われませんが、今回参加したこども記者のみならず、

「伝える」という新たなスポーツとの関わり方を体験することができました。

大会スタッフやプロのカメラマン、そして上田藍選手にもお声かけいただきなど、特別な経験ができた今回のプログラムでした。

【横浜市体育協会・吉山博之】

2015 世界トライアスロンシリーズ横浜大会
キッズプロジェクト「こども記者」事業は、
株式会社ニコンイメージングジャパン様のご協賛により実施されました。

【協賛内容】

- ・こども記者および保護者・スタッフ1人につき1台のカメラの借用提供
- ・カメラの使い方説明とスポーツ写真撮影についてのワンポイントアドバイス、全活動日における運営協力

